



ピッポ新聞

2007

9

No.223

年間購読料 (送料込み) 1500円

編集・発行 伊藤俊男

子どもの本専門店

ピッポ

〒424-0886 静岡市清水区草薙1-6-3

TEL & FAX 0543-45-5460

URL <http://www.pippo.co.jp>E-mail itoh@pippo.co.jp

神田古書市場

単純ではない古書価額

神田の古書会館で開催されている古書市場へ出入りするようになって2年半。ようやく、このところ少しだけ古書市場というものが見えてきたように感じます。そこで、今月はおじさんの見た、古書市場とはどんなものかを紹介します。ぼくは平均すると月に1回でかけますが、市場は月曜日から金曜日まで毎日、本のジャンルや性格(?)別に開催されています。ぼくが出かけるのは月曜日の「中央市会」。これはコミックから一般書・サブカルチャーまであらゆるジャンルの本が出品され、子どもの本もここに出品されるのです。

出品された本は、古書会館の3階と4階に山のように積み上げられています。時には部屋の外まで溢れることもめずらしくありません。驚いたことに、この膨大な古書の山が、半日弱の時間で、落札されてきれいに片づいてしまうのです。さすがに神田は日本一の古書市場です。出品された本は、ある程度の冊数まとめられてひもで括られています。それが何本かまとめられていたりすることが多いのですが、中には一本(数冊から20数冊ぐらい)だけだったり、場合によっては単品(1冊だけ)というのをもたくさんあります。何本口かになっっているものは200冊を越えるものもあります。

いつだったか、一つの壁面いっぱい積まれていて、「これまとめいくら?」というのもありました。ぼくはこれだけで小さな古本屋が開業できるのではないかと思ったほどです。実は古本屋には、このことが市場で本を買う場合の長所であり短所でもあるのです。

長所は同じようなジャンルの本(例えば岩波文庫3百冊まとめとか)を一度に仕入れることができます。また、駄本ばかりだと思つて落札したが、後でこれを整理して掘り出し物を発見!なんてこともあるのです。そんなときは、一人で悦に入るのですがね。

最大の欠点は、欲しい本ばかり選んで買うことができないうことです。いろいろな本(これはあくまでも自分の店ではということですが)も背負い込まなければならぬのです。3年の間に、そんな本を既に段ボール20箱以上も、ぼくは抱えています。再度市場へ出すこともできません、いまのところ、この本をどうするかいいアイデアが浮かびません。

落札のルールは一つ。口数ごとに、それぞれに封筒が挟み込まれていて、その中に(それが1冊でも100冊でも)2千円以上の落札希望価額を書いて入れるのです(こういうルールは単純で客観的であることが大切です)。

落札したい人は落札希望価額と店名を書き込んだ指定のメモ紙を封筒に入れるのです。あたりまえのことですが、他人が入れた内容を見てはいけません。時間がくると役員が封筒を開き一番高い値段を付けた人が落札となるわけです。そうそう、言つてもないことですが、この市

場に入りにできるのは全国の古書組合に加入している組合員だけです。

ぼくはこの市場で子どもの本を買うのですが、子どもの本の出品はとも少ないのが不満です。まだまだ古本屋の業界では、子どもの本は市民権を獲得していないのですね。これに比べると、コミックはこの何十倍も出品されます。

これ以外にも多くのジャンルの本が出品されますが、子どもの本以外にも、ぼくの興味をそそるものはたくさんあります。自分の入札のかたわら毎回これを見て歩くのが楽しみでもあります。

心穏やかでいられない 入札結果

これまで、見よう見まねで入札に参加してきたのですが、最初は失敗ばかりでした。なかなか落札できないのです。開札結果をみると、ぼくの値段がほかの人よりかなり安すぎるためでした。一桁違うこともめずらしくありませんでした。

静岡から神田まで出かけますから、地元や東京近郊の古書屋さんたちがつて、交通費(往復の新幹線代11340円)などの経費が余分にかかるのです。経費と言えば、帰りに八重洲の地下街のビアホールによってビールを飲んで帰るのは、カミさんが言うように、やはり余分な経費ですよ。・・・? 経費が余分に掛かるから、安く落札して利幅を増やすことばかり考えていたようです。それで落札ができなかったのですが、

考えてみれば、本を仕入れないことには、儲けも生まれまいという至極当然なことが抜け落ちていたようです。

このことに気付いた後は、ぼちぼち落札できるようになりました。落札できるといつても、今度は高く値段をつけすぎたために儲けが出ない場合もあるのです。

先程、出品の本には一口2千円以上の値段をつけるのがルールだと書きましたが、もう一つ決めごとがあるのです。入札希望額は2つの価額を書けるのです。

ですから、たとえば9千円と7千円と表示できるのです。この場合9千円で落札できたとしたら、9千円と7千円の間にはほかの人が値段を入れたのが解るのですが、7千円で落札できたとしても「おー、安く入札できたぞ」と、喜んでほぐすのです。

次点のひとが6990円だったらよいのですが、もしかして2010円とつけていたとしたらどうでしょう。ぼくは相当高く買ったことになるわけです。

次点がいくらかはこちらには解らないのですから。この点は経験と勘の世界なのだと思えます。

もう一つ、最低値段が1万円を超えて応募する場合は3種類の落札希望額を書くことができます。例えば、4万円・3万5千円・1万5千円と入れたとします。この場合4万円で落札できたとしたら、次点の人が4万円から3万5千円の間というところが解りますから、心穏やかでいられますが、もしもこれを3万5千円で落札した場合が悩ましいところなのです。次点が3万

4千円だったなら納得なのですが、ひよっとして、1万6千円だったかも知れないと考えたら皆さんだつて心乱れませんか?

これとは逆に、価額を安くつけすぎて失敗した場合です。この場合もぼくの心は波立つのです。

ある時、岩波少年文庫がまとまって出品されていきました。初期の頃の少年文庫で、すべてハードカバーです。ざつと数えると250は冊あります。ぼくの知らない作品もかなりあり、今は絶版になつていてるものが多数です。

「これは絶対落札したいな」と心密かに思つて値段を書いたのです。いざ値段をつける段になつて、本がだいがヤケているから、2万5千円・2万円1万5千円(端数は略)とつけたのです。ところがぼくの付けた価額は到底落札できる金額ではありませんでした。

落札価額は8万をこえるものだったので。これは応募者が多かったのですが、ぼくの完全な読み違いといつことになり。ことほどさように、新米古本屋は毎回スリルを味わつていけるのです。

さて、失敗ばかりを書いてきましたが、「ジャー成功したことはないのか?」言われてしまいそうです。

数は少ないのですが、あるのです! 今度は成功した数少ない例を話をします。

この話は次号へ続きます。しかし、1年半前にも似たようなことを書いていました。相変わらず進歩がありませんね。でもこの続きはちがいます。乞うご期待!

ねー、この本読んだ？

『ぼくのとくいわざ』(よぐちたかお・作
1155円 福音館書店)
きょうはクマさんの誕生日。みんな得意技



をひろうしてお祝いすることにしました。まずはカメレオンさんは部屋の模様替えを...。この絵本は帯に「動く絵本」シリーズ第2弾とあります。見返しのポケット

に入っているフィルムを絵本につけて、これを動かすと絵が動いて見える仕掛けになっています。ぼくは試してみました、何だかめんどくさいのと、絵がちよつとごっこだけで「それがどうした!」という感じだけしかありませんでした。これは玩具絵本と呼ぶのかも知れませんが、フィルムでわざわざ絵を動かさなくても、普通の絵本としてもしゅづぶんおもしろいのにな。

『地球タイムス』(あべ弘士・新沢としひこ・平田明子・益田裕子・文 あべ弘士・得 1365円 理論社)
これは世界中の動物たちの様子を伝える新

聞です。構成は普通の新聞と同じで、一面は報道性のある記事が、スポーツ欄があり、新聞小説があり、芸能ニュースやクイズや人生相談など続きます。春の号と有り、頁を進めると夏の号が続き秋の号へ続くとおもっていたら、秋の号はみんな温泉旅行へいくから休刊とあり、何だか「ピッポ新聞



に似ているかと、親しみを感じました。勿論冬の号はありますよ。

『海のジェリービーンズ』(角野栄子・作
高林麻里・絵 1365円 理論社)
角野さんは自然や物と会話のできる人なので、その



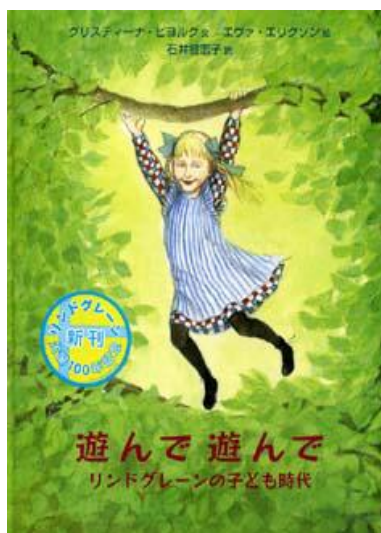
会話からちよつとお話を紡ぎ出すのです。この物語もそんな一つです。「海のジェリービーンズ」

ネーミングもおしゃれです。ところで、ジェリービーンズってのは赤や黄色や緑や青の細長い甘いお菓子のことですね。あれ、ぼくは子どもときの憧れのお菓子で、今

も大好きなんです。あれを4〜5個一ぺんに口の中に放り込んで食べるのがうれしいのですが、こんなこと書くと孫にも笑われてしまいそうです。

『遊んで遊んで リンドグレーンの子ども時代』(クリステイナ・ビヨルグ・文
エヴァ・エリクソン・絵 石井登志子・約
2415円 岩波書店)

これはスウェーデンの国民的児童文学作家リンドグレーンの評伝です。この本を書いたのは、『リネア モネの庭で』(世界文化社)の作者クリステイナ・ビヨルグです。



あの『長くつし下のピッピ』や『やかまし村の子どもたち』も作者リンドグレーンの子供時代に経験したことが作品にいかされているのだと解ります。それにしても、リンドグレーンは登場人物のようにいたずらで活発な子だったのです。この本、評伝だけでなく、後半部では彼女の作品世界を旅(スウェーデン旅行)ができるように写真つきで旅行案内にもなっています。

暑い夏！ 畑は雑草ばかりで収穫は？

それにしても今年の夏は暑かった。9月（5日現在）に入ってもこの暑さは続いているが・・・。台風9号がちかづいているというから、願わくば秋を運んできてくれればと思うしだいだ。



8月はあまりの暑さゆえ、ジヨギングも休みがちで、走ったのは2回ほど。予定した山登りもタイミングがずれて未だ実現していない。物が事が予定通り進まないのを、自分の怠情を棚に上げ異常気象の所為にするのは、な

にやら昨今の政治家の「記載ミス」の言い訳のようで、潔くないからやめよう。

暫く借りている畑にもいつていなかったので、ぼくが植えた地這いキュウリを収穫してきてくれたMちゃんが「ピッポさんのところは雑草が茂っていて、おばあちゃん（畑を借りている大家さん）が怒っていたよ」と知らせてくれた。

翌日畑へ行った。なるほど雑草が伸び放題で、収穫を楽しみにしていた枝豆が虫に食われて雑草の中にもまれていた。炎天下の中、さっそく草取りをはじめた。しゃがみ込んで手などで抜いていくなどという段階はもはやとうに過ぎ去っている。鍬で掘り起こして土をふるって一個所に積み上げていくしかない。虫食いの枝豆も扁平なたちのものばかりで、食べられそうにないから一緒に掘り起こした。

今年も、7月の水不足と高温で、夏野菜のキュウリ・トマト・ナスなどが病気になる余り収穫できなかった。これも、畑から遠のいていた理由の一つだ。

そんな中であって、なぜかカボチャのきだけは良い。2本の苗を植えたのだが、特別に何かをしたわけではなく、ただ、少し深く掘った穴の中に肥料をたくさん埋めて、その上に土をかぶせて苗を植えただけである。

このカボチャは四方八方へつるをのばしてこれまでに、けっこうな大きさのカボチャを既に7個収穫したが、写真のカボチャを入れて後2個収穫でき、収穫は全部で9個になる。ただし、少し水っぽくて味はいまひとつだ。この写真のカボチャはつるが木にからみつき空中で実を付けたので、ちよつと珍しいと思つて写真を撮つてみた。もう一枚はKさんとMちゃんが種を蒔いて育てたバジル。このバジルを刈つてバジルソースのレシピ付きでピッポの店頭で売ろうか、と相談して畑に行った。ところが、Kさんがチヨウウチヨの幼虫がいつぱいいるから、止めた方がいいというので、結局、ピッポの店頭での販売は諦めた。

なるほど、バジルの小さな白い花の上を数種類のチヨウウが乱舞している。モンシロチヨウ・モンキチヨウ・ベニシジミ・イチモンジセリ・ウラギンシジミ・・・。チヨウウはバジルが好きなのだらう。葉っぱには小さな



幼虫がのたくっていた。

ぼくは無農薬のバジルは少々幼虫がいたつて、農薬をかけたバジルより価値があると思う。チヨウウの幼虫はバジルを使うときに取り除けばいいのだからね。今年も諦めたけど。来年は幼虫がのたくっているバジルでも買ってくれる人いるかな？

数日後、バジルソースがMちゃんからたくさん届いた。これをスパゲティに絡めて食べたのだがとても美味しかった！